

第18回 TFDセミナー

拝啓 新春の候、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、今回で18回目を迎えます『TFDセミナー』を下記の日程にて開催する事となりましたので、
ご案内いたします。ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますようご案内方々、
お願い申し上げます。 敬具

日時：平成26年3月4日（火） 19:00～21:00

場所：フクラシア東京ステーション 6階 B会場

東京都千代田区大手町2-6-1朝日生命大手町ビル（東京駅・大手町駅 B6出口直結）
TEL 03-3278-5671

会費：1,000円

【情報提供】

『オングリザ錠2.5mgによる糖尿病透析患者のCVD進展防止』

協和発酵キリン株式会社

【Opening Remarks】

昭和大学横浜市北部病院 内科 教授 衣笠 えり子 先生

座長：埼玉県済生会川口総合病院 腎臓内科 部長 石塚 史乃 先生

【一般演題1】

『右内頸静脈血栓症及び左総頸動脈血栓症を伴った、
重症のヘパリン起因性血小板減少症（HIT）の一例』

埼玉県済生会川口総合病院 腎臓内科 眞壁 志帆 先生

【一般演題2】

『透析中の運動療法 ～腎臓リハビリテーションの一環として～』

N T T 東日本関東病院 高血圧・腎臓内科 新堀 有佳 先生

座長：湘南鎌倉総合病院 血液浄化部 部長 日高寿美 先生

【特別講演】

『維持血液透析患者の身体活動量を管理する意義とその戦略』

北里大学大学院医療系研究科リハビリテーション科学
さがみ循環器クリニック 松沢 良太 先生

【Closing Remarks】

東京女子医科大学東医療センター 内科 講師 樋口 千恵子 先生

※当日は軽食をご用意しております。

【共催】TFDセミナー/協和発酵キリン株式会社

【交通案内】

住所 〒100-0004東京都千代田区大手町2-6-1朝日生命大手町ビル5F、6F

アクセス 東京駅・大手町駅B6出口直結、東京駅日本橋口徒歩1分

TEL (総合受付) 03-3510-3051



第 18 回 TFD セミナーのご報告

3月4日火曜日 19時から東京駅近くのフクラシア東京ステーション 6階で湘南鎌倉総合病院の日高寿美先生の主催のもと第 18 回 TFD セミナーが開催されました。今回は、一般演題として、埼玉県済生会川口総合病院腎臓内科の真壁志帆先生と、NTT 東日本関東病院 高血圧・腎臓内科の新堀友佳先生にご発表いただき、さがみ循環器クリニックの松沢良太先生に特別講演をいただきました。

一般演題の 1 演題目は「右内径静脈血栓症ならびに左総頸動脈血栓症を伴った重症のヘパリン起因性血小板減少症(HIT)の一例」で、血清アルブミン値が 1.1mg/dL まで低下したネフローゼ症候群の患者にステロイド治療と同時期に血栓症予防として実施したヘパリンの持微注を契機に発症した HIT の報告でした。ネフローゼ症候群での過凝固状態で一般にヘパリンの持続投与を行う施設が多く、HIT への注意と HIT を疑った際の抗 PF4/ヘパリン抗体の Antigen assay が重要とのアドバイスをいただきました。

2 演題目は「透析中の運動療法～腎臓リハビリテーションの一環として～」で、透析患者さんの運動機能は、心不全や COPD の患者さんと同程度まで低下しており、新堀先生は維持透析患者さんの運動機能（握力・大胸筋筋力・大腿四頭筋筋力や、10m 歩行、30 秒立ち座りなど）を理学療法士の協力のもと測定し、さらに透析中（開始 2 時間以内）に患者さんの状態に合わせて各種 resistant exercise を 6 ヶ月間行いその効果を検討された報告でした。運動療法実施によって、上腕筋周囲径が大きくなり Urea clearance が低下する傾向を確認され、透析患者さんでの運動リハビリの意義と実施に当たっての注意をご報告いただきました。

特別講演では「維持血液透析患者の身体活動量を管理する意義とその戦略」のテーマに松沢先生にお話をいただきました。透析患者さんの身体活動は、弱強度の活動程度しかなく、また透析中ならびに透析帰宅後もほとんど身体活動はなく、維持透析患者さんの身体活動は全体的に低いだけでなく、透析日と非透析日で活動量に差異があることをご指摘いただきました。身体活動・運動機能の低下している維持透析患者においても、運動量の up は重要で、特に下肢の筋力をトレーニングによって向上することで、バランス力も高まり転倒などの事故も回避できることを示されました。ご講演の後半はご自身の勤務される施設での運動療法のご様子を紹介いただき、理学療法士の視点から生命予後・QOL の向上における運動療法の意義を多くのご自身のデータならびに文献をもとに楽しくお話いただきました。

今回は主幹の日高先生のご尽力で 40 名近い参加者を向かえることができました。会終了後も松沢先生への個別の質問も多く、透析患者さんの身体機能の向上は今後さらに検討すべき点であると実感される会となりました。来年も 3 月 3 日の桃の節句に一同に会し交流を深めるお約束をいたしました。(文責 濱田)